

お客さまの共有課題
→ 地域雇用の創出
1938年 全体のできごと
日東精工株式会社を設立
水温計、レントゲンタイマーなどの精密機械の製造にはじまり、カメラ部品の製造、下請け加工などを行う

御事業の軌跡

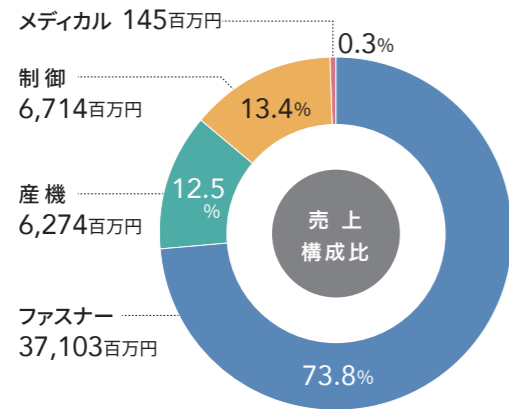
ファスナー事業のできごと

産機事業のできごと

売上高推移
※設立年から1980年までは日東精工単体での決算、1981年以降は日東精工グループの連結決算で表示しています。

日東精工の海外進出

日東精工の事業ポートフォリオ



ファスナー事業

セルフタッピンねじや国内初の量産化を実現した精密ねじを筆頭に実績を積み重ね、軽量化、新素材対応、コストダウンなどお客様のニーズを満たす独創的かつ機能的なねじを開発・製造しています。近年は、高機能ねじに留まらず異種金属接合部品なども開発。また、太物ボルトや建築用ドリルねじ、プレス品を得意とするグループ企業もあり、あらゆる要望にお応えしています。



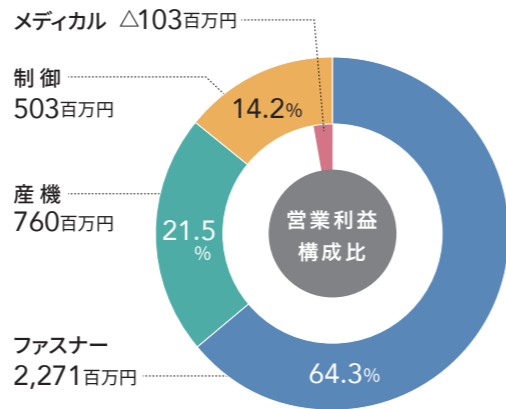
- 主要製品**
- 精密ねじ ●セルフタッピンねじ ●ゆるみ止めねじ
 - セルフクリンチングスタッドボルト ●特殊冷間圧造部品
 - 複合部品 ●異種金属接合部品 ●ねじ製造用工具
 - ボルト・ナット ●ドリルねじ ●精密プレス部品

制御事業

1949年に量水器を手掛けて以来、暮らしや化学・食品などあらゆる産業に各種流量計をお届けしてきました。その後、多様な計測・検査ニーズに応えるべく、当社各事業の技術を結集し、「小物部品画像検査装置」「地盤調査機」「マイクロバブル洗浄装置」「水分測定装置」「元素計」などに製品群を拡充しています。



- 主要製品**
- 流量計 ●計装システム ●検査選別装置
 - マイクロバブル洗浄装置 ●地盤調査機
 - 水分測定装置 ●各種分析装置(元素等) ●抵抗率測定装置



産機事業

国内で初めて自動ねじ締め機を開発して以来、お客様のニーズに合わせて、ねじ締めロボット、リベットかしめ機、ナットランナなどを手掛けてきました。これらは自動車、電機、電子機器、住宅設備など幅広い業界で活躍しています。コア技術のねじ締め技術以外にも部品の移載、搬送、検査、包装など生産システムに必要な製品技術を保有し、組立ラインの要望にもお応えしています。



- 主要製品**
- ナットランナ ●自動ねじ締め機(単軸・多軸)
 - ねじ締めロボット ●ねじ供給機 ●リベットかしめ機
 - 自動組立機 ●計数包装機 ●基板検査機

メディカル事業

2020年、当社第4の事業として立ち上げました。同年7月には手術時の術野を照らす医療用照明器「FREELED®」の製造販売を開始。産学官連携で研究を進め開発に成功した「医療用生体内溶解性高純度マグネシウム材料」の実用化に向け、治験の実施や製造体制の構築などを進めています。



- 主要製品**
- 医療用照明器「FREELED®」
 - 医療用生体内溶解性高純度マグネシウム材料 (製品化に向けた取り組みを推進中)

長期ビジョンに基づくロードマップ

2026~2028年度の中期経営計画「Mission G-final」は、2028年の経営ビジョンである「世界中で認められ、求められる『モノづくりソリューショングループ』を目指す」の最終ステージです。本中期経営計画は、前中期経営計画まで進めた事業領域拡大とグローバル展開をさらに進化させるとともに、事業シナジー創出と資本コスト経営を継続して進めます。既存事業の成長を加速し、次世代のモノづくりソリューションを

確立させることで、イノベーションによるモノづくりの未来を切り拓いていきます。第2ステージの4つの成長戦略を継承・深化させ、「事業および製品のポートフォリオ改革」「環境・社会のソリューション事業」「働きがいと働きやすさ両立による人財力最大化」「高効率、高収益の戦略投資」により、2028年度の目標達成を目指します。



従業員が伸び伸びと活躍し、

社会から必要とされる

企業を目指す



日東精工株式会社
代表取締役会長 兼 CEO
材木 正己
Masami Zaiki

日東精工にとってサステナビリティ経営は、まさに“経営そのもの”

日東精工のサステナビリティ経営は、「地域とともに成長し、地域に必要とされる企業であること」を起点としています。これは、当社の発祥以来、創業の地・綾部において「地域雇用の創出」と「地域産業の発展」を重要な使命としてきたからに他なりません。当社88年の歩みは、地域住民や取引先、関係者の支えがあってこそ、すなわち「地域に育てられた企業」との想いが強いことから、環境への配慮、地域社会との共生、人財育成、次世代への価値承継などの取り組みを重視してきました。日東精工にとってサステナビリティ経営とは、創業精神を脈々と受け継ぐ、まさに“経営そのもの”といえます。

そして、「地域から必要とされる企業であり続ける」には、お客さまのニーズをしっかりと掴んで貢献する、そして社会全体に役立つ企業でなければなりません。例えば、大量生産の時代にあっては、いかに大量にそして安く作るかという社会的要請に対応した自動ねじ締め機を開発し、大量生産に対応できるねじを開発、量産して応えるなど、お客さま満足度120%を目指してきました。日東精工にとって大きな転機となったのが、私も設計として関わった「0.6mm圧造極小ねじ」の開発です。

当時、時計やカメラに使われる極小ねじは、切削で作られていました。当社はこの極小ねじの製造方法に、素材(ワイヤー)を金型に押しつけて成型する塑性加工を世界で初めて採用。世の中

にない製品を作るには、金型や工具、機械設備に至るまで、全て自社で賄う必要がありました。さらに、ねじはできたとしても、ハンドリングができ、締結ができ、きちんと締まっているかが確認できなければなりません。この一連の機器開発を全て自社技術、日東精工ならではの総合力を発揮して成し遂げました。このようにニッチトップの製品を数多く輩出してきたことが、日東精工の強みとなっています。

このように極小ねじが成功を収め、精密ねじにおいて世界トップクラスの生産量を誇るのには、諸先輩のたゆまぬ積み重ねがあればこそです。当初は不良品が多く、極小ねじの開発は困難を極めました。そのような中であっても「世界にない製品を作りたい」という挑戦を続けさせる度量が備わっているのだと思います。私は日東精工の経営者として感謝の気持ちを持って受け継いだ資産をより大きく育て、次の世代に送り出していきたいと考えています。



人を大切にしなければ、人は力を発揮できない

日東精工は、「幸せ経営」「絆経営」のもと、人と人の絆を大切にしてお互いに成長し、ともに幸せになることを目指しています。なぜなら、いくら業績が好調でも、従業員を幸せにできない会社は世の中に貢献できないと考えるからです。

まず、人を大切にしなければ、人は力を発揮できません。私は「会社は家族のようなものだから」とよく言いますが、それぞれが良いところを出し合って良い会社にするのが一番だと考えています。つまり、人財育成の要点は、教育した人数ではなく、それぞれの良い点を見出し、それをいかに企業の成長に活かしていくかに尽きます。良い点を見出された従業員が伸び伸びと活躍する会社にするのが、一番結果を出すことにつながっていくと考えています。

では、どのように見出ししていくべきか。ここでも「家族」がキーワードであり、若手の力を読む管理職には、何よりも「自分の子や孫を入れたい会社にしてくれ」と指導しています。

こうした取り組みを進めるにあたっては、昨日より今日、先月より今月成長できるようにやり方を変え、一步一步前進する弥栄(いやさか)経営を進めています。

このようにトップがしっかりとの方針を掲げ、役割分担をしつつ従業員のベクトルを揃えていくことが強い組織につながります。一人ひとりが一步一步前進する教育体系で世の中に役立つ企業をつくり上げ、信用力を高めることで、従業員が「働いて良かった」、そしてお客さま、取引先、株主が「付き合っていて良かった」と感じられるWin-Winの関係性を築いて持続的に成長していきます。

新中期経営計画においては、目指す持続的な成長をより確かなものとするために、「収益力の向上」と「将来成長への布石」を両立させていきます。そして、課題である「稼働力の強化」に向け、とりわけ、営業利益60億円という目標に強くこだわり、これを必達することによって企業としてのステージと実力をもう一段引き上げていく考えです。これにより、短期的な成果と中長期的な企業価値向上をともに実現していきます。

そして最終的にそれをやり切るのには「人」です。日東精工の従業員には社是「我らの信条」のもと「自ら学び、自ら成長し、社会に貢献する」という姿勢が根づいており、一人ひとりがたゆまぬ努力を積み重ねているため、必ず成果を出せると確信しています。

「幸せ経営」の目指す姿

- ① 健康で働けること
- ② 物心共に豊かになること
- ③ 一人ひとりが成長を感じる(やりがい)
- ④ 家族共々誇りを感じられること
- ⑤ 安心安全で働けること

「絆経営」の考え方

- ① お客さまの要望に対して満足度120%対応を心掛けています
- ② 誰もが幸せに生きられる社会を目指しウェルビーイングを追求します
- ③ 公益性社会貢献を創業の精神とし、持続可能な社会と企業の実現を目指します
- ④ これら全ての実行のために強固な財務基盤を確保します

人を大切に、勝つ集団に